

2017年03月01日（水）【連合神奈川 2017 春闘決起集会】

3月1日（水）連合神奈川は、横浜市・関内ホールで『2017 春闘総決起集会』を開催し、神奈川県下、構成組織 26 産別・9 地域連合 4 団体、1075 人が集結し、運輸労連より 30 人が参加しました。



連合神奈川 柏木会長

柏木教一会長は「今次春闘は、賃金引き上げにより、個人消費の拡大を計る。月例賃金にこだわった闘いを！」と強調し、団結を呼び掛けました。また、政府の働き方改革実現会議については「荷重労働が問題視されている。風潮を改めて、働き方を見直すことが重要。我々は『生きるために働いているのであって、働くために生きているわけではない』労働組合の取り組みが最重要になる」と指摘しました。

集会では私たちは『「底上げ・底支え」「格差是正」でクラシノソコアゲを実現しよう！長時間労働撲滅で、ハッピーライフの実現を！』をスローガンに、「働くことを軸とする安心社会」

を実現するために、「クラシノソコアゲ応援団」のメンバーとして、一人ひとりが主体的に取り組んでいく。連合神奈川は、構成組織・地域連合、各労働組合から職場に至るまで総がかりで行動し、最後の最後まで粘り強く闘い抜くことを本総決起集会において宣言、採択されました。



連合 安永事務局長

連合本部より安永事務局長が『2017 年春季生活闘争の情勢』を述べました。

2017 年春季生活闘争は、4 年目の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現を目指している。近年、徐々にではあるが賃金水準は上向きつつあるが、「経済の自立的成長」「包括的な社会構造」「ディーセント・ワークの実現」を目指す闘争を展開していくとしています。労働者が直面している課題の解決をはかるだけでなく、日本の中長期的な将来の社会構造を見据えた中で、労働組合が何を出来るかではなく、何をしなければならないの

かを考えなくてはならない。超少子高齢化、人口減少、長時間労働の是正、ワークライフバランス実現など、社会が直面している課題が多い。政府は働き方改革実現に必死になり、安倍首相の強いリーダーシップがただ目立つだけになっている。本来であれば、働き方を一番

に考えなければいけない連合の存在が薄れている。今春闘も賃金にはこだわる必要があるが、賃金だけでなく労働環境の整備にも努め、ハッピーライフ実現の第1歩としていきたい。



神奈川総合法律事務所

嶋崎 弁護士

神奈川総合法律事務所より嶋崎弁護士が『働き方改革と労働法制の課題』というテーマで講演がされました。

働き方改革と労働法制の課題については、安倍首相の労働法制に対する意思表示は、2014年のダボス会議から始まり、どさくさに紛れて実行した労働法破壊（アベノミクス三本の矢）、派遣法の破壊（自由化）、労基法改悪（定額働かせ放題法案）、解雇の金銭解決制度など多くの制度を破壊し、自らが既得権益の岩盤を打ち破るドリルの刃になってきた。そして現在、電通事件が更なる加速材となり、長時間労働の是正、同一労働同一賃金を目指すなど、自らが議長になり、働き方改革に取り組んでいる。しかし

そこには過去の政策と多くの矛盾も引き起こしている。例えば、労基法改悪（定額働かせ放題法案）＝残業代ゼロ制度は現在の長時間労働削減と大きく矛盾している。その場しのぎの政策に、私たちは踊らされているだけであり、いざ実行してみたらボロが出て、またそこを補強する政策を取り続けているのではないかと思う。今一度、働き方については労働組合の皆さんで話し合ってください、連合が前に出て政策にメスを入れて欲しい。



記事：丸全昭和運輸労働組合 中央書記長 萩原 和彦